

新病院「ベッド数300」で 加賀市の医療提供体制は大丈夫なのか!

現在の病床数 (床=ベット数)	市民病院：一般病床226床
	山中医療センター：一般病床159床・療養病床40床
	合計：425床

これを、市当局は、新病院では、

一般病床250床・回復期リハビリテーション病床50床とする。

<療養病床は廃止するとしています。>

課題

もともと、今回の統合・新病院建設の話は、救急医療に対応するため、そして、手術を必要とする患者が、市外へ出ていく割合が特に多いことを改善しようということからはじまったのではなかったか?

と、いうことは、現在ある425床を300床に減らせば(125床もなくなる)市民にとっては、たいへん困ることになる。

又、一度、病床数を減らせば、増床は困難。

素朴な疑問

一般病棟250床ということになれば、現在の市民病院(226床)と、そんなに変わらない・・・。

これでは、市民病院と山中温泉医療センターを統合し、96億6100万円もの借金をして、しかも新たに民間の土地を買って、JR加賀温泉周辺に新病院を建てることに、どれだけの意義があるのだろうか?



室谷 ひろゆき 議会報告

市役所議員室 加賀市大聖寺南町二41 77-7965
住 所 加賀市山代温泉14の67 77-7839

2011年
12月号

125床も減らした病院をつくるというのであれば、既存の場所での建て替えや、駐車場の立体化、又、高齢者が来やすいように、市内循環型の100円バスにお金を使った方が、よほど市民にとっても、加賀市の財政にとっても良いのではないか。

現在の2つの公立病院の入院患者数(1日平均)

	H22	H23
市民病院	174人	179人
山中温泉医療センター	140人	136人
合 計	314人	315人

つまり、現在でも、315床ベッドが必要なのに、これでは新病院になれば、現在の状況ですら対応できない！しかも、加賀市は、高齢化率26.7%の超高齢社会である。今後、市内での入院患者は増えると予想される、これでは、多額の借金をしてまで新病院をつくっても、市民の安心な医療提供を守れるとは、思えない。



「市民の力」で医師不足を解決しよう！

「柏原病院の小児科を守る会」の取り組み

築59年の公立病院

2006年3月 小児科医は3人勤務していた

2007年3月 小児科医が2人になった

2007年4月 病院人事により、小児科医:実働1人になる

<残された医師は、あまりの激務に退職の意向を示す！>

情報を知った7名の普通のママたち（20代～30代）が、

⇒⇒⇒立ち上がった！！

1.市内の半分以上の署名を集め、県に、医師増員を求めた。

But. 回答 「柏原病院だけを支援することはできない」

2 県の冷たい対応と体験により、「行政に頼るだけでなく、市民が行動し、医師が働きやすい市にしていこう」と、運動

3 まず、「今いる医師を大切にする」

そのために「時間外の受診を減らせば医師の負担は軽くなる」

との、理念のもと

「医師が少ないなら、少ない医師が働きやすい病院にしていこう」

と、行動をおこす！

- ① コンビニ受診を控えよう
- ② かかりつけ医をもとよう
- ③ 医師に感謝の気持ちを伝えよう

>>

と、いう運動をおこしていきました。

○それ以外にも、まず夜間受診をする前に、受診する必要があるかどうか事前に電話相談することを進めた。また、小児救急冊子「病院に行く、その前に…」を発行、(勤務医の負担減につながった)

○そして、市民自身によるこのような活動の結果、適正受診が進み、柏原病院の小児科の時間外受診者は半減しました。

○このように、市民が、医師の勤務状況を理解し、救急性のないコンビニ受診をひかえるような動きが高まってくるにつれ、医師にとって働きやすい職場ということで、2008年4月には、2人の常勤医が赴任し、その後も市民が理解ある市ということで、医師がどんどん来るようになり、現在は7人体制にまでなっている。

◎このママさんたちの行動に刺激されて、中高年の「たんば医療支援隊」などができ、市民自身が地域医療を守るため、医師と協力する市になっています。

【教訓】

何故、地方の公立病院に医師は来てくれないのか？ 去っていくのか？

その原因の1つを、市民側・患者側にも問題があったと、考え…

∴ 「軽症での、夜間のコンビニ受診」を控えるよう、市民運動をおこした。

つまり、地域医療を継続していくため、市民がコンビニ受診を控えるなど、できる事をしていった。それによって、医師にも少しずつ余裕ができた。

市民・行政・医療者が、「地域医療を守る」という、一つの目標に向けて、考え行動してはじめて、地域医療提供体制は、良くなっていくのです。決して、新しい病院を建てれば、全て問題が解決するわけではない……と、いうことです。



借金は、利子が大変

市当局は、新病院の建設事業費97億4100万円のうち96億6100万円を借金でまかなうとしています。

では、この借金96億6100万円 に対して

利子は、どれくらいかかるのでしょうか？

(建物などは30年ローン、医療機器は5年ローンで支払い続けます。)

なんと、**利子合計は、25億900万円**になります。

今回の新病院建設にかかるお金は、

借金元本	96億6100万円
借金利子	25億 900万円
自己資金	8000万円
総合計(実質)	122億5000万円

という、莫大なものになります。



しかも、その支払いは、建設後5年間は金利のみの支払いで少なくて済みますが、その後は利子と元本を延々と払い続けなければなりません。

内訳	加賀市	一般会計で	35億3300万円
		病院事業会計で	43億1800万円
	国負担(地方交付税として後日くる予定)		43億1900万円

と、いうことは、加賀市の実質負担は・・・
自己資金8000万円と、元本と利子の市負担分78億5100万円の

合計は、79億3100万円にもなります。

次の世代のことを考えれば・・・これでよいわけがありません。

※特に用事がない限り、16:00過ぎより、大型スーパー前にて、街頭演説をしています。お気軽におきき下さい。

※皆様のご意見を、ぜひ、おきかせください。

※これまでの、議会だよりやホームページは、インターネットにて、「室谷ひろゆき」で検索すればご覧になれます。



(討議資料)